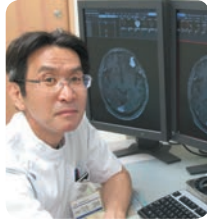


たんなん通信



公立丹南病院における 医療安全対策の取り組み

公立丹南病院
脳神経外科 副病院長
竹内 浩明



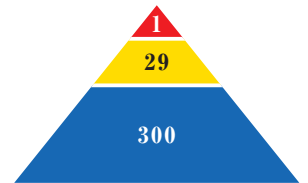
西暦1898年に鯖江歩兵第三十六衛戍病院として創立され一世紀以上、2000年に旧国立鯖江病院から経営移譲に伴い公立丹南病院として発足してから、20年以上経過いたしました。現在も当地で診療を続けられることは、地域住民の皆様のご支援の賜物であり、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今回から、当院広報誌の名称と表紙を変更し、新たに「たんなん通信」として、皆様にお届けいたしております。今後ともご愛読の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、公立丹南病院では、当院の理念でもある「地域住民に愛され、信頼される、安らぎのある病院」を心がけ、患者様の安心・安全のため、医療安全対策に積極的に取り組んでいます。今回は、この医療安全とは何か、また公立丹南病院ではどのような対策をしているかその一端を、少しご説明します。

医療安全に関する事の発端は、1999年の横浜市立大学病院での肺の手術の患者と心臓の手術の患者を取り違えた事故、都立広尾病院での消毒薬点滴による死亡事故がマスコミを賑わしました。この後も重大な医療事故が相次いで報道され、医療が国民の信頼を大きく損ない、医療事故は、組織全体の在り方を改善しなければいけないということとなりました。以降、全国の病院で、いろいろな医療安全管理体制が整備され、「人は誰でも間違える」ことを前提に、間違っても大事故や障害に至らないようにするにはどうすればよいかという考え、取り組みがなされてきました。

その中に、インシデント、アクシデントレポートがあります。インシデントとは、実際に被害はなかったが、もしかすると患者様に傷害を起こしたかもしれない事例です。アクシデントとは、実際に患者様に被害を与えた事例のことです。飛行機事故など大事故が起きた時に、

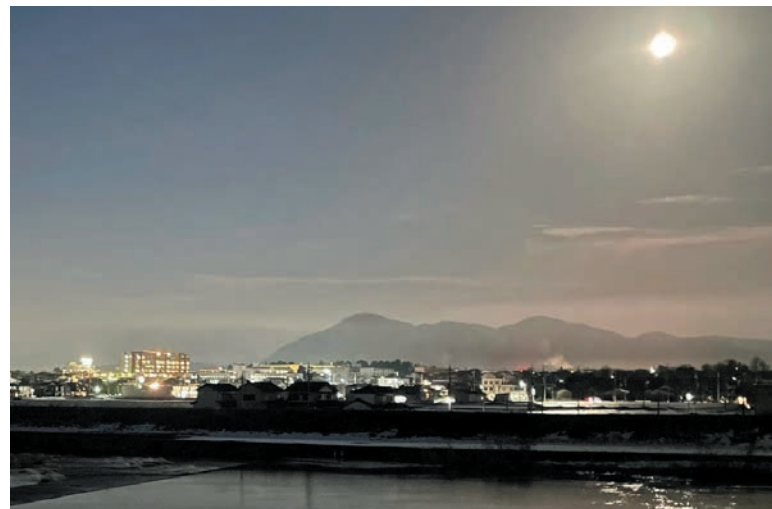
よく用いられるハインリッヒの比率というのがあります。同じ種類の330件の災害のうち、300件は無傷で、29件は軽い傷害を起こし、1件は重い傷害を伴っているという1：29：300の比率のことです。



言い換えれば、インシデントは重大なアクシデントを未然に防いでいる「シグナル」と考えられます。ヒヤリとしたりハッとしたりした体験から自発的に提出された報告が、インシデントレポートですが、医療現場だけでなく皆様の職場や日常生活などでも活用できます。ヒヤリとした経験（インシデント）を、「何もなくよかった」ではなく、重大事故（アクシデント）にならないよう、①問題点の抽出、②背後要因の探索、③実効性のある対策と評価を講じておくことが、未来の安全・安心のために役立つと思います。

丹南病院では全職員から、年間500件以上のインシデント、アクシデントレポートがあり、医療安全委員会がすべての案件を詳細に検討し、防止策を考え、医療事故の防止に心掛けています。こうして集積されたインシデント、アクシデント事例および対策を、さらに分析し、医療事故の実態把握を行うとともに、未然に事故を防止するよう心がけています。

参考文献：『医療従事者のための医療安全対策マニュアル』
社団法人 日本医師会：2007年11月1日発行



公立丹南病院近郊の夜景
手前(下)から日野川、公立丹南病院、文殊山、満月

新任医師のご紹介

公立丹南病院は各診療科にわたり、新任の医師を迎えることができましたのでご紹介いたします。
どうぞよろしくお願いいたします。

産婦人科

知野陽子先生
大阪府茨木市出身



こんにちは。産婦人科の知野と申します。妊娠・出産だけではなく、思春期から老年期までどの年代の女性もそれぞれのライフスタイルで楽しく生活できるように、健康のサポートをさせていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

整形外科

平井貴之先生
勝山市出身



福井大学卒業後は、大学病院や嶺南地域に勤務していました。外傷はもちろん日頃の腰痛といった身近な症状にもしっかり対応しますので、何でも気軽にご相談ください。よろしくお願いいたします。

整形外科

山本悠介先生
兵庫県三田市出身



小浜病院で初期研修、福井大学で後期研修を終了しました。整形外科専門医を取得し、今後はリウマチ・手の外科などを専攻していきたいと思っております。お困りのことがございましたら何でもご相談ください。

耳鼻咽喉科

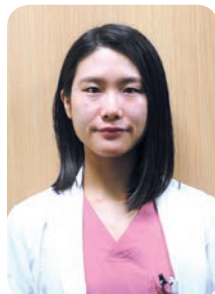
坪川亜優美先生
福井市出身



福井大学卒業後、福井県済生会病院で2年間の初期研修、大学病院で1年間、福井赤十字病院で2年間勤務しております。まだ医師6年目と未熟ですが、尽力致しますので何卒よろしくお願いいたします。

産婦人科

加藤優里先生
小浜市出身



幼少期に数年間鯖江市に住んでいたことがあり、この度公立丹南病院で勤務させていただくこととなりご縁を感じています。ひとりひとりの患者さんにいちばん適した医療を提供できるよう、日々精進したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

総合診療科

勢理客晶子先生
沖縄県沖縄市出身



2年前に沖縄から福井県にやってきました。救急、内科医として働かせていただきます。分からないことも多く、日々精進して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。そして少しでも地域の方々に貢献できるよう頑張りたいです。

泌尿器科

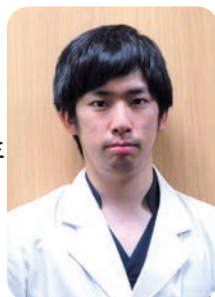
齊川詩織先生
福井市出身



去年は大学病院におりました。困っている方にそっと寄り添うような診療をモットーにしています。気軽に声をかけていただくと幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

小児科

宇戸谷翔太先生
兵庫県尼崎市出身



福井大学を卒業後、初期研修を敦賀で2年、その後大学病院で1年間勤務後、公立丹南病院小児科で勤務させていただくこととなりました。自宅にも0歳児がおり、公私ともに子供達のよき理解者になれるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

内科

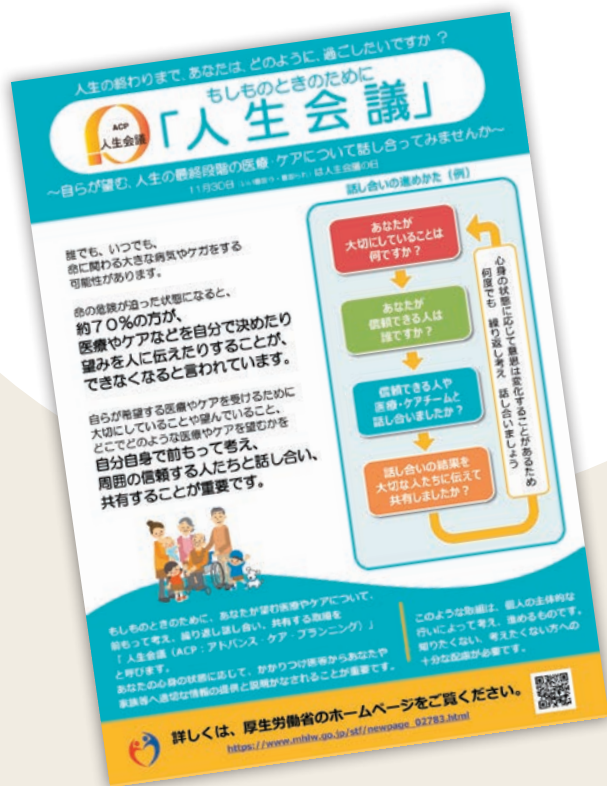
奥田圭一郎先生
越前市出身



丹南地区で生まれ育った自分が、丹南病院で従事できることをうれしく思っております。若輩ですが、様々な面でこの地域に貢献できるように努力させていただきます。

あなたは、「もしものこと」を考えたことがありますか？

人生会議



人はみな、いつでも、命に関わるような大きな病気やけがにより、命の危険が迫った状態になる可能性があります。命の危険が迫った状態になると約4分の3の方が、これからの治療やケアなどについて自分で決めたり、人に伝えたりすることができなくなるといわれています。

「もしものこと」があった時に備えて、あなたの大切にしていることや、どのような治療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたり、あなたの信頼する人たちと話し合ったりすることを「アドバンス・ケア・プランニング（愛称：人生会議）」といいます。この話し合いは、もしもの時にあなたの信頼する人があなたの代わりに治療やケアについて難しい決断をする場合に重要な助けとなります。まだ自分には必要ないと考える方もいらっしゃると思いますが、元気なうちから人生会議を行うことは、あなたらしい最期を迎えるためにかげがえのないものになるはずです。

例えば、家族の集まる機会や誕生日などの節目に、家族や信頼できる人にあなたの思いを伝えてみませんか。また、自宅で療養する際には、かかりつけ医や介護スタッフが治療やケアを支えることになります。意思を伝え、話し合っておきましょう。そしてあなたの意思や話し合った内容をノートなどに書き留めておきましょう。時間が経つにつれて考えが変わることは自然な事です。話し合いながら何度でも書き直しましょう。

公立丹南病院は、この「人生会議」の取り組みを行っています。あなたのお心づもり、ぜひお聞かせください。

「人生会議」について詳しく知りたい方は、病院職員にお声掛けください。



公立 丹南病院

公立丹南病院 在宅事業部

居宅介護支援事業所 TEL 0778-51-5411

訪問看護ステーション TEL 0778-52-2050

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31 FAX 0778-52-2151

メールアドレス tannan-zaitaku@jadecom.or.jp

通所リハビリテーションセンター なごみの里 TEL 0778-51-5234

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31 FAX 0778-51-8242

メールアドレス tannan-nagomi@jadecom.or.jp

病児・病後児保育所「えくぼ」 TEL 080-6367-6567

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31

TEL 0778-51-2260 FAX 0778-52-8620

メールアドレス tannan-info@jadecom.or.jp

https://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/tannan/html/

